



長野県No.1 のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況と当面する重点作業について

高温干ばつの影響で、成熟は遅れ小玉となっている。また生理落果も目立った。果肉硬度や地色で判断し適期管理・収穫を行う。

みつ症や日焼けの発生も懸念されるため、収穫序盤は取り遅れに注意し、果肉硬度や地色で判断し適期管理・収穫を行う。

1. 除袋後・収穫前防除と被害果除去により腐敗病・ミカンキイロアザミウマ防除対策を徹底する。

特に昨年は、腐敗病が多発生し、問題となったため、必ず、除袋後・収穫前防除を実施する。

2. 各品種の適期収穫に努める。着色より熟度優先で収穫し、ロス果を減らす！

3. 乾燥し過ぎる前に、収穫間際でも軽い散水を行う。盆後以降収穫する品種は、干天が続いたら20～30mm程度のかん水を行なう。

4. 配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。

総合的な品質向上対策として、ケルパック 66、オルガミン等を利用する。

5. 果実が重くなり樹に負担がかかっている。枝倒れしないように支柱等を行う。

◆除袋目安と管理について

1. 生育状況に十分考慮しながら、(高温干ばつで生育は遅れ、曇天多雨で生育は進む)別記の日程を目安に地色の抜け具合を観察し適期に除袋作業を進める。

2. 除袋時の注意

①除袋が早すぎると、無袋のようになり、着色が遅れ、遅すぎると着色せず、軟化が早くなるので、注意する。一般的な桃は、下記の図1を参考に白っぽく淡い緑色になる頃が目安です。果実全体の地色が抜けた状態ではやや遅い。

②大玉から除袋を開始し、小玉や下枝・樹冠内部のものは上枝の除袋4～5日後に数回に分けて行う。最低でも上枝と下枝では生育差があるので2回程度に分けて除袋する。

③もも二重袋を使用したものは、3～4日程度早めに外袋のみ除袋する。

④除袋時に、曇雨天が続くような場合は、除袋時期の目安より、2日程度早めに始める。

⑤老木や樹勢の弱い樹は、数日早く除袋する。樹勢の強い樹は、除袋を遅らせる。

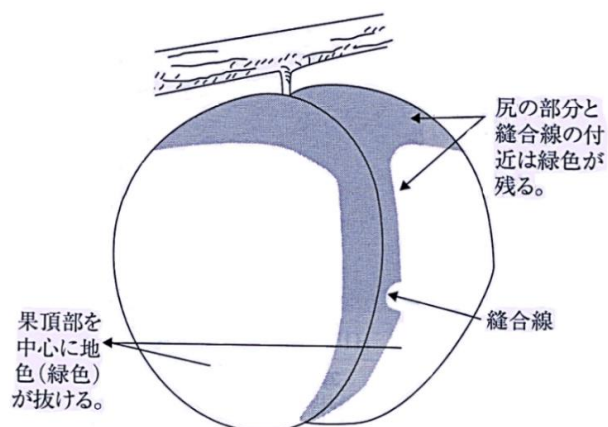


図1 果実の除袋目安

3. 着色管理

①葉摘みは、着色ムラをなくすため果実に密着している葉を摘む。1果当たり5枚程度を限度とする。

摘み過ぎないように注意する。摘み過ぎは、着色・糖度に悪影響が出やすい。また肌荒れ・日焼け・軟化等、品質低下になる場合がある。※もも二重袋を使用した場合は、葉摘みはしない。

②反射シートは、有袋品種で、除袋直後から使用する。無袋品種で収穫予定日の10～14日前位から使用する。概ね着色したら又は、収穫開始2日前薬剤散布前にシートを外す。

③支柱立て、誘引を行い樹内部に日の光が入るようにする。

④着色先行となり、早採りを助長するので、熟度をよくみて判断し収穫する。

4. 一重袋での除袋時期の目安（あくまで目安です。今後の気象条件・自園の状況に合わせる）

品 種	時 期	目安の指標
川中島白桃	8月上中旬頃	<u>収穫7～10日前頃</u>
秀峰	8月中下旬頃	

※目安の指標：着色が容易な品種ほど除袋は遅めに。着色が困難な品種ほど早めとしてください。

◆もも・ネクタリン収穫前薬剤散布について

収穫前の重要な病害虫防除になる。特に降雨が多い場合は、影響が大きい。必ず実施し、対策を行う。

【除袋後・無袋着色始め】 **※必ず実施する。**

1. 散布時期：有袋除袋後又は、無袋着色始め（収穫7～10日前頃）《実際散布日記入 月 日》
2. 調 合 量：100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
スクレアフロアブル	3 3 mℓ	灰星病・ホモブシス腐敗病	前日
アーデントフロアブル	5 0 mℓ	モモハモグリガ・ミカンキロアザミウマ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日

【収穫開始2日前防除】 **※必ず実施する。**

1. 散布時期：収穫開始2日前 《実際散布日記入 月 日》
2. 調 合 量：100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
オンリーワンフロアブル	5 0 mℓ	灰星病・ホモブシス腐敗病	前日
エ ク シ レ ル S E	2 0 mℓ	ミカンキロアザミウマ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日

【共通留意事項】

3. 散 布 量：10a当り ⇒ 500ℓ 以上
4. 留意事項
 - ①「収穫前日」となっている農薬の使用時期は、収穫する24時間前までに散布が終わる事を意味する。
 - ②果柄部へも丁寧に薬剤散布を行う。
 - ③除袋直後（ほとんど果面に日照を受けない状態）は、薬害（褐色の流れサビ斑・縞状の着色不良）が出やすいので少なくとも1～2日程度は日照をあてて散布する。
 - ④腐敗果を発見したら被害を拡大させないために、園外に持ち出すか除去し土中に埋める。
 - ⑤スクレアフロアブルに代えて、ミギワ20フロアブル 4,000 倍（水 100ℓ 当り 25mℓ・収穫前日まで）を使用してもよい。
 - ⑥オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 2,000 倍（水 100ℓ 当り 50 mℓ・収穫前日まで）を使用してもよい。
 - ⑦エクシレルSEに代えて、サムコルフロアブル10の 5,000 倍（水 100ℓ 当り 20 mℓ・収穫前日まで）又はディアナWDG5,000 倍（水 100ℓ 当り 20g・収穫前日まで）を使用してもよい。

【もも薬剤防除】 ※もものみ

◆白根白桃以降薬剤散布について

1. 散布時期:8月2日(土)～6日(水) 《実際散布日記入 月 日》

2. 調 合 量:水1000 当り ※混用順に記載。

3 .

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	1 0 mℓ	—	—
ダコニール 1 0 0 0	1 0 0 mℓ	灰星病	前日
ディアナ W D G	2 0 g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日

散 布 量:10a当り⇒ 500ℓ 以上

4. 散布上の留意事項

①今回の防除は、極晩生種の定期散布として行い、収穫中のもも・ネクタリンに飛散しないよう十分注意する。

②ダコニール1000は、除袋直後に飛散すると薬害を発生する場合があるので、十分注意する。

③ダコニール1000に代えて、オンリーワンフロアブル 2,000 倍(水 100ℓ に 50mℓ・収穫前日まで)を使用してもよい。

◆収穫中品種の腐敗病防止対策について(もも・ネクタリン共通)

果実腐敗病の被害果は、発見次第胞子が飛ばないように除去する。

被害果が樹上にあると降雨で被害が拡大するので、早急に除去し土中等に埋めて処理をする。